第 1 学 年 算 数 科 学 習 指 導 案

1年2組　指導者　岡 本 貴 裕

単　元　　ひいて、たして？ひいて、ひいて？「繰り下がりのあるひき算」

1　本単元でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○数量の関係に着目し、柔軟に減法の仕方を考えている。	○既習の数の見方を働かせ、減加法と減々法を使い分けている。	○仲間の図や具体物の操作の意味を解釈している。

2　めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、減法の学習において、被減数が 10 以下の範囲の中で計算の意味を考えてきた。このような子どもたちが、２位数から１位数をひいて繰り下がりが起こる計算の仕方を考える学習に取り組む。このことは、既習の数の見方を働かせることで、未習の計算の仕方を見付け出そうとする態度を養うことにつながるであろう。

本単元は、２位数から１位数をひいて繰り下がりが起こる場面について、図や具体物の操作から、減加法と減々法の仕方を考える学習である。小学１年生にとって、繰り下がりのある減法は最大の難関であると考える。それは、２位数から１位数をひく際に、被減数の「10 のまとまりからとる」操作よりも、「端数からとる」操作の方が自然であるからである。つまり、被減数が 10 を超えた途端、「10 のまとまりからとる」という見方がしにくくなることが一つの要因ではないだろうか。しかし、「10 のまとまりでみる」という感覚は、どの子どもにも備わっている。この感覚をもとに、「10 のまとまりからとる」という見方が自然と働く学習過程を仕組みたい。そうすることで、本単元のような未習の場面においても、数の見方を働かせることで、計算の仕方を見付け出そうとする態度を養うことができると考えるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

○　問題提示の際、問題文の一部を曖昧にして、具体物を操作するよう促す。そうすることで、数量の関係に着目し、柔軟に減法の仕方を考えることができるようにする。【対】

○　子どもが図や具体物を操作して説明する際、仲間の図や具体物の操作の意味を解釈するよう促す。そうすることで、減加法と減々法の違いに気付くことができるようにする。【他】

○　減加法と減々法の仕方を考える過程で、働かせた数の見方を問う。そうすることで、既習の数の見方を働かせ、減加法と減々法を使い分けることができるようにする。【自】

3　本単元の目標

○　２位数から１位数をひいて繰り下がりが起こる場面について、数量の関係に着目し、柔軟に減加法と減々法の仕方を考えることができるようにする。

○　数の見方を働かせることで、計算の仕方を見付け出そうとする態度を養うことができるようにする。

4　本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○２位数から１位数をひいて繰り下がりが起こる場面を言語化し、計算することができる。	○数量の関係に着目し、柔軟に減加法と減々法の仕方について考えている。	○数の見方を働かせ、減加法と減々法の仕方を見付け出そうとしている。

5　指導計画（全５時間）

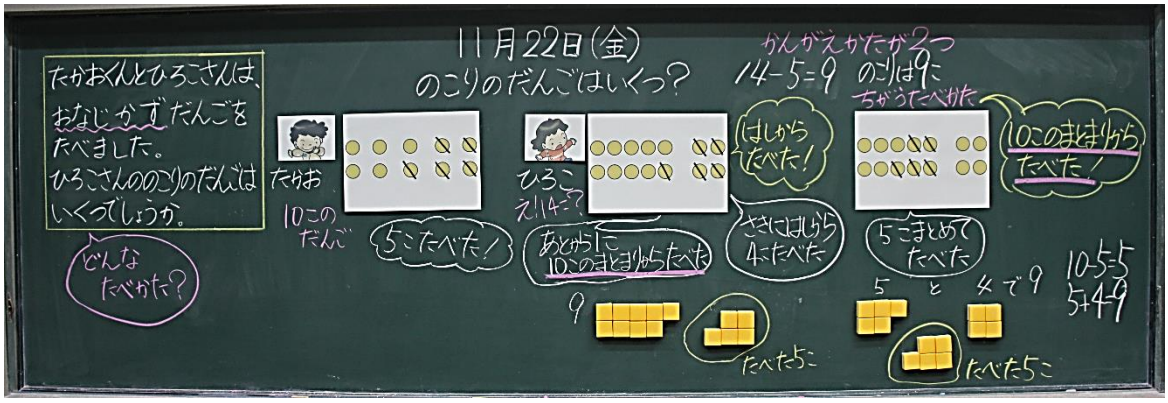
第１次　減加法と減々法の仕方について考える（３時間）【本時１／３】

第２次　たしひきセンスゲーム（繰り下がりのあるひき算編）を行う（２時間）

６　本時案　　【令和元年１１月２２日　９：２５～１０：１０　１年２組教室】

（１）ねらい　　減加法と減々法の図や具体物の操作について考えることをとおして、減加法と減々法の仕方の違いを捉え、共通点を見いだすことができるようにする。

（２）学習過程※下線は３つの向き合う姿が表れている子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
１　問題場面の事柄について話し合う。　（10 分） ・「10 のまとまりでみる」こと 【たかおくんの団子の食べ方の図】 ○○○⊘⊘ ○○⊘⊘⊘ 【ひろこさんの団子の食べ方の図】 ○○○○○　○○ ○○○○○　○○	・ひろこさんの残りの団子の数を求めるよ。 ・図を見ると、たかおくんは、10 個の団子から、５個食べていることが分かるね。 **ひろこさんの残りの団子はいくつあるかな。** ・あれ、たかおくんは全部で 10 個だったけれど、ひろこさんは全部で 14 個あるよ。 Ｂ14－５をして、９ではないかな。 ・ひろこさんは、たかおくんと同じ数食べたから、残りは９個だと思うよ。 「同じ数食べた」とは、どういうことかな。	○問題文の一部を曖昧にして、一つの事柄をもとに考えるよう促す。そうすることで、事柄の関係について柔軟に考えようとすることができるようにする。【対】 ○子どもが図や具体物を操作して説明する際、仲間の図や具体物の操作の意味を解釈するよう促す。そうすることで、減加法と減々法の図や具体物の操作の違いについて考えることができるようにする。【他】
２　減加法と減々法の図や具体物の操作について考える。　（30 分） ・減加法と減々法の図や具体物の操作 ・仲間の図や具体物の操作の意味を解釈すること ・「10 のまとまりからとる」見方	Ａたかおくんが５個食べているから、端から順番に食べていくと残りが９個になるということだよ。【対】 Ｂえ、端から食べたの。５個のまとまりをとって食べたのではないかな。 ・どちらも残りが９個だから、同じだよ。 Ｃいや、食べ方が違うのではないかな。 ・Ａさんは 14 個の４個を先に食べて、残りの 10 個からさらに１個食べているよ。【他】 Ｂぼくは、10 個の団子のまとまりから先に食べているから違うね。 ・あ、本当だ。Ｂくんは、10 個の団子のまとまりから先に５個食べて、あとで、残った５個と４個を合わせて数えているね。	○図や具体物の操作から言語化する過程で、働かせた数の見方を問う。そうすることで、減加法と減々法の共通点を見いだすことができるようにする。【自】
３　減加法と減々法の図や具体物の操作を比べる。　（５分） ・減加法と減々法の違いと共通点	・式と答えは同じなのに、食べ方が違っていておもしろいな。 ・そうだね。14－５の計算は、考え方が２つあることがわかったよ。 Ｃどちらとも、10 個の団子のまとまりの中から食べているところは似ているね。【自】	

（３）板書計画